

【32】 水害はゴミ災害

水害では川からの氾濫流により家屋が壊されることもあります。破壊力の小さい単なる浸水でも、住居の直接、間接の被害は大きいものがあります。濡れた畳、障子、襖、家具、電化製品、衣類、寝具などあらゆる品々をもったいないと思いつつも廃棄せざるを得ません。昔風の間仕切りの土壁も水に浸かったらダメになります。

今では想像しにくいのですが、かつての下水道普及前の住居は便所が汲み取り式だったので、浸水時には汚物があふれ出し、水害後に被災地を訪れると異臭がしたものです。伝染病の発生を恐れて、水が退くと、消石灰の白い粉を撒いたり、クレゾールや石炭酸を噴霧したりと消毒作業に大わらわでした。

現在では生活が豊かになりトイレは水洗化が進みましたが、家財道具が増えたので廃棄物が著しく増え、農家でもない庭や建物まわりの空地も少ないので、勢い表の道路に山積みみされることになります。手際よく回収しないと道路交通の支障になります。

この際とばかり家に死蔵されていた不用品もついでに廃棄されることも多いので、市町村の清掃部局の手にあまる量の廃棄物が発生します。近隣市町村からの応援も得て何とか回収できても、それを分別、焼却、埋立などで処理するには限界があるので、仮置きしておく場所が必要になります。その仮置場の用地確保が難問なのです。

水害後の市町村長さんたちの回顧談には、住宅再建、災害復旧と並んでゴミ処理の苦労話が多いのです。